

井上 真由美 講師

【いのうえ まゆみ】

1977年生まれ。岐阜県出身。博士（経営学）。



- 経営学総論
- 企業論
- コーポレート・ガバナンス

研究テーマについて

私は日本企業が長期的に発展するために、経営者と利害関係者(従業員/銀行/取引先/株主/消費者/地域社会…)がどのような関係を取り結ぶことが望ましいのかを研究しております。

ところで経営学といえば、まず経営戦略やマーケティングなど利益を上げたり商品を買ったりするための技術的な知識のことを思い浮かべる人も多いかと思いますが、コーポレートガバナンスも重要な領域です。

そもそも大きな利益をあげたり新しい商品を作ったり売ったりすることのできる企業を、いったいだれがどのように率いていくのでしょうか。これはコーポレートガバナンスの基本的な問題意識だといえるでしょう。

企業とは、経済的な目的を追求することに特化した人間組織あるいは社会集団だということができます。そうであるならば、企業という人間組織も家族やクラブや教室などあらゆる組織と同様にまとまりが必要ですし、また一回きりのビジネスでおしまいというのではないとしたら、組織の構成員（企業の利害関係者）の間の長期的なつながりも重要となります。

まとまりもつながりもなかった例をひとつ出してみたいと思います。戦前の日本の株式会社では、利害関係者のひとりである株主が、会社の意思決定に非常な影響力をもっていました。というより、大株主が経営者だったというほうがわかりやすいでしょう。できてまもない日本のビジネス界は、全体として投機的・利率的あるいは冒険的な性格をはらんでおりましたので、まさにそのような人たち（株主＝経営者）を引き付ける世界でした。当然、彼らは短期的な自己利益の増大を目的とし、企業の長期的な発展、社会への貢献などということまで考えていませんでした。また技術や技能をもった従業員を育てず、苦しいときに助けてくれる金融機関をもってもいませんでした。したがって、すぐに破綻してしまう会社が戦前には無数にありました。

これは昔の例ですが、同じような問題に現代の企業は直面しているように思います。近年、日本の経営者の元気がなくなってきているといわれています。この理由について、今の経営者は、株主の目（株価つまり短期的業績を高めよというプレッシャー）を気にするあまり、本当にやりがいのある仕事つまり長期的な展望に立った組織づくりができないからではないかという人もいます。

短い文章なので、コーポレートガバナンスの重要性が十分に伝わらなかったかもしれません。しかし昔も今も存在し続けるこうしたテーマについて、皆さんと一緒に議論をし、そして考えを深めることができれば幸いです。

まゆみのひとこと



経営学総論について

経営学の基礎的な知識を学ぶことができたのでとてもためになる授業でした。授業はパワーポイント風のレジュメにキーワードを入れていくやりかたで図などがありわかりやすくまた、テストの復習が非常にやりやすかったです。基礎的なことをやるので自分の興味のある分野を見つげられると思います。

企業論について

この授業では企業の形態や日本的な経営について学んでいます。企業についてニュースで見たりすることばかりがあったり、自分の見識を広げることができます。講義は具体例を使いながらゆっくり行うので全体として流れをつかみやすく理解しやすかったです。

井上ゼミ1期生 柄澤 拓弥

コーポレートのオーダーを考える